

ノーモア・ヒバクシャ通信 第22号

発行 2015年4月30日

ホームページ <http://www.kiokuisan.jp/>
継承ブログ <http://keishoblog.com/>

発行者 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会
〒102-0085

東京都千代田区六番町 15 プラザエフ 6F

Tel/Fax 03-5216-7757 (直通)

Email hironaga8689@gmail.com

郵便振替口座 00170-5-694752

(口座名義) ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産基金

★もくじ

I. 第3回理事会、臨時理事会のご報告	P	1
II. 「被爆者からのメッセージ」英語版がダウンロード可能になりました	P	2
III. 部会、作業グループの取り組みから		
1. 継承・交流活動のための懇談会（継承・交流部会）	P	2
2. 資料収集・整理作業グループ	P	3
IV. ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワークの取り組み		
1. 第7回作業日	P	4
2. the pigeon voices 被爆者ひとりひとりの人生と出会う	P	4
3. デジタルストーリーテリング（DST）研修会	P	4
4. 「被爆の証言を聞くつどい」を開催しました	P	5
5. 「アオギリにたくして」上映会を開催しました	P	6
6. 第6回打ち合わせと今後の予定	P	7
V. 各地の取り組み		
1. 東京高校生平和ゼミナール「春の学習交流会」“被爆者からのたすき”	P	7
2. 冊子「原爆投下後の70年 今、なお」が出来上がりました！	P	9
VI. 2015年度会費納入のお願い	P	12
VII. 第3回通常総会のご案内	P	13

I. 理事懇談会（第3回理事会）、臨時理事会のご報告

3月14日(土)主婦会館プラザエフ5F第1会議室で開催した第3回理事会は、理事の出席が半数に満たず理事会は不成立のため懇談会として開催しました。理事懇談会を受けて4月11日(土)午後、主婦会館プラザエフ5F第2会議室で臨時理事会を開催しました。臨時理事会の審議事項は、次の通りです。

(1) 総会議案について

(審議事項)

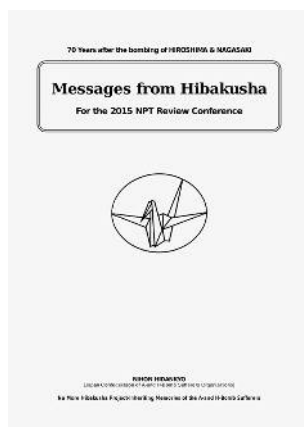
- 1) 2014年度事業報告(案)承認の件
- 2) 2014年度決算(案)承認の件(監査報告を含む)

- 3) 役員選任の件
(報告事項)
- 4) 2015年度事業計画
- 5) 2015年度予算
- (2) 総会の運営について
- (3) その他

II. 4/22 「被爆者からのメッセージ」英語版がダウンロード可能になりました

日本被団協とノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会は、「2015年NPT再検討会議へ向けて 被爆者からのメッセージ」(英語版)を発行しました。

この「被爆者からのメッセージ」は、被爆者が語った体験や思いを、若い世代が聞き取って書き起こす共同作業で作りました。小さな冊子ですが、被爆者とその思いを受け継ごうとする人びとの共通の願いが込められています。4～5月に開かれる核兵器拡散防止条約(NPT)再検討会議には、日本被団協の代表団がこの英訳版を持参し、そのこえと願いを国連や世界の人々に届けています。



先に発行された日本語版とあわせて日本被団協、ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会のウェブサイト上から無料でダウンロード可能になっております。

日本被団協 URL :
<http://www.ne.jp/asahi/hidankyo/nihon/>

継承する会 URL :
<http://kiokuisan.com/>

NPT再検討会議や被爆70年の諸行事やその打ち合わせの折に掲載されている証言を読んでみるなど、ぜひご活用ください。

印刷された冊子が必要な方は頒価200円+送料でお送りいたしますので継承する会事務局までお申し込みください。

III. 部会、作業グループの取り組みから

1. 継承・交流活動のための懇談会(継承・交流部会)

4月4日(土)午後、主婦会館プラザエフ5階で、継承・交流活動のための懇談会を開催しました。

参加者は被爆者6人、引き継ぐ側が8人。今後の継承・交流活動の進め方を考えるため

に、参加者を絞って、語り継いでもらう側の被爆者と、語り継ぐ若い人たち双方からの問題提起を自由にしてもらい、すり合わせてみました。

広島・長崎から70年。被爆者から次代に語り伝えたいことは何か。

被爆者（手帳所持者）の数は昨年20万人を切り、今年は18万人台になるのではないかとされています。一番多かった1980年代初めには37万でしたが、今年はその半分を割ることになるかもしれません。これは、見方を変えれば、70年経ってもまだ18万人の被爆者が残っているということ。この18万人のうち語ったこともない、書いたこともないという被爆者が圧倒的に多いわけで、一人でも多くの被爆者に語ってもらうとくみ、これが第一の課題です。

もう一つはなぜ原爆が投下されたのかということ。アメリカでは今でも原爆で戦争が終わったと思っている人が多い。なぜアメリカが原爆を使ったのか、日本はそれに対してどうしてきたのか。これは被爆者の課題というより専門家、歴史家も含めて明らかにされなくてはならない歴史です。

3つ目は、被爆者は何をしてきたのか、どういう運動をしてきたのかを伝えること。来年が被団協結成60年になるので、その意味でも来年にかけて重視したい課題です。

若い人たちからも、それぞれに原爆や戦争に関心をもつようになったきっかけや、周囲の友人たちと語り合い共有し合う場がもてない悩みが語られました。

率直な意見交換のなかで、どうしたら自分の問題として受け止めることができるだろうか。じっくり時間をかけて何回も話を聞き、身近な〇〇さんとして知っていくプロセスが大事だ。若い人たちとつなぐキーワードは、過去の戦争被害だけでなく、現在・未来の戦争をもがまんさせる「受忍」政策にあるのではないか。一方的に講演を聞くのではなく、今日のような双方向の語り合いがいい、など、今後につながる様々な意見が出されました。

継承・交流部会では、聞く側と語る側の双方向の交流を重視しながら、継承の取り組みを具体化していきたいと考えています。

2. 資料収集・整理作業グループ

これまで、主に日本被団協の運動史資料を中心に、昭和女子大の松田先生の指導の下で整理作業をすすめてきました。昨年度は学生さんら延べ100人がこの作業に参加してくださり、日本被団協にある運動資料と藤平典さん（日本被団協代表委員）や嶋岡静男さん（三重）、副島まちさん・園辰之助さん（兵庫）ら、亡くなられた各地のリーダーのご遺族から寄贈いただいた資料を整理し、それら約3,000点を目録化するところまで終えることができました。

しかし、それは愛宕事務所にある資料のほぼ半分にすぎません。その他の書籍・冊子類にはまだほとんど手がついていません。今年の課題としては、被団協と協力しながら各県における被爆者運動の資料、証言集をできるだけ早い時期に集める体制をとること、もう一つは日本被団協にすでにあるものを中心に、書籍、冊子の目録を作っていくこと。資料

庫の確保を含めて、そのための具体的な体制づくりをすすめるとともに、各地の会が刊行した被爆者の手記・証言の Web 上での公開やデータベース化をすすめて行く予定です。

医療・相談事業関係資料、平和教育関連資料については、ようやく分野の専門家を含むチームづくりに着手したところ。その収集・整理方針を立てて行く予定です。法律・訴訟関連の資料についても、具体化が急がれています。

IV. ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワークの取り組みと今後の予定

1. 第7回作業日の報告

2/28（土）主婦会館プラザエフ5F会議室で第7回作業日が開催されました。

ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワークでは、昨年から少人数で被爆者の証言にじっくりと耳を傾け、そのあと質疑応答だけではなく被爆者と受け継ぎ手が感じたこと、考えたことをディスカッションする「被爆の証言を聞くつどい」を開催してきました。

その中で聞き、語り合うだけではなく、今、ヒロシマ・ナガサキをどう受け継ぎ、発信していったらよいのかというテーマが生まれました。

第7回作業日の参加者は4名でしたが、これまでの取り組みの上で、被爆者と受け継ぎ手が協力して、webサイトで被爆証言を読みやすい記事にして発信する「the pigeon voices 被爆者ひとりひとりの人生と出会う」、被爆証言や受け継ぎ手の想いをデジタルストーリーテリングの手法を使って作品として発信していくことなどが話し合われました。

2. 「the pigeon voices 被爆者ひとりひとりの人生と出会う」

この企画は「被爆証言の発信力を高めよう。被爆者の声を受け継ぐ一歩を踏み出そう」という趣旨で、今年の2月にスタートしました。下記webサイトにて、被爆証言と証言者のインタビュー記事とを併せて掲載していく予定です。現在は、ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会理事の吉田一人さんの証言および記事を掲載しています。今後も、被爆者と若い世代の協力・参加を得ながら、定期的に取り組んでいく予定です。

初回の記事作成に当たっては、3月8日（日）に吉田さんの自宅をいずれも30歳前後の4人で訪問し、インタビューと写真撮影を行いました。取材を通して、吉田さんの人柄や故郷への思い、仕事の流儀などを垣間見たと共に、被爆体験や被爆者としての思いを人生という文脈から掬い取る機会ともなりました。今後の協力・参加をお願いします！

webサイト：<http://thepigeonvoices.tumblr.com/>

3. デジタルストーリーテリング（DST）研修会

4月12日（日）主婦会館プラザエフでデジタルストーリーテリングの手法で作品を作

ってみました。講師はデジタルストーリーテリング研究所の小澤真人さん、被爆者として坂下紀子さん（2歳の時に広島で被爆。ピースボート第7回航海に参加し世界各地で証言）がご協力くださいました。6名の参加で実際に作品を制作しました。使用した画像の許諾確認作業が終わり次第、公開予定です。今後、継続的に被爆者、受け継ぎ手の作品を制作していく予定であります。今後の予定は継承ブログなどでご案内いたします。



はじめたばかりで当分試行錯誤が続きますが、一緒に取り組んでくださる個人、グループを募集しております。自分たちでつくってみたいという方も大歓迎です。お気軽に継承する会事務局（島村）までご連絡ください。

4. 「被爆の証言を聞くつどい」を開催しました



3/29（日）都内四ツ谷の主婦会館プラザエフで今年初めての「被爆の証言を聞くつどい」を開催しました。証言者は大岩孝平さん（広島で13歳のときに被爆）。受け継ぎ手は8名。新しく参加した早稲田大学1年生の吉村さん、NPT再検討会議に全国大学生協連から参加する中村さんと若い世代が参加してくださいました。当日の司会進行も若い世代の受け継ぎ手の吉村さんに担っていただきました。

受け継ぎ手の感想、司会の吉村さんと語り手の大岩さんの「つどい」のまとめの発言をご紹介します。

【受け継ぎ手の感想】

■数字や表面的な様子だけではないリアルな話を聞くことができました。当時の空気感が伝わってきました。極限状態ではな感情もいつものようには働かないということも心に残っています。

■原爆は人として死なせてくれなかった。尊厳などなかった。どこの誰だか分からないまままとめて焼かれた。友人、知人はみな亡くなった。これらの体験を記憶から消してしまいたかった。だから30年くらいは体験を意図的に話さなかった」ということを聞いて改めて戦争は非人間的なものと強く感じました。

■原爆によって非人間的な死を迎えた人々のことが今のままではなかったことにされてしまうという危機感に突き動かされていらっしやることをひしひしと感じた。

【まとめの発言】



司会（吉村）：貴重なお話をありがとうございました。被爆した当時の広島の様子もそうですが、そこにあった背景ですとか、原爆孤児のことも私は今まで詳しく知らなくて。そういうこともこれから大事にしていかなくてはいけない、ということをお今日は強く感じました。ありがとうございました。最後に大岩さんから私たち若い世代に一言頂ければと思います。



大岩：「戦争ってなんですか？」「一言でいったらどういうことですか？」とよく聞かれるんです。その時に私は「戦争は人も国も、全てを狂気にする」と答えています。まともな感覚では戦争はできませんよ。人が人を殺すのですから。一人を殺せば殺人罪です。それが戦争では一人が100人殺せば英雄なんです。その感覚に吞まれてしまうと、今度はそれが当たり前になってしまいます。それが戦争なんです。若い人はぜひ、そのことを実感として持っていたきたい。

5. 「アオギリにたくして」上映会を開催しました

4/19（日）都内四ツ谷の主婦会館プラザエフで「アオギリにたくして」上映会を開催しました。高校生からシニアまで29名が鑑賞しました。

映画「アオギリにたくして」は、広島平和記念公園の被爆アオギリの木の下で、被爆体験を語り継いだ故・沼田鈴子さんをモデルとした劇映画です。「平和の尊さ」と「いのちの大切さ」への思いをアオギリにたくして、日本全国・世界の国々での上映と共に、被爆アオギリ2世の植樹を企画しています。この映画を観てくださった方々の心に、平和の種が蒔かれていくよう願っています。

（映画「アオギリにたくして」公式webサイトより）

プロデューサーは昨年12月プラザエフで開催した「ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐつどい」のミニコンサートで歌っていただいた中村里美さん。当日は中村柊斗監督、音楽監督の伊藤茂利と中村里美さんがいらっしゃいました。



【参加者の感想から】

■女性（66歳）

目をそむけたくなるような悲惨さを美しい映像で伝えてくださったと感動しました。



■男性（58歳）

憎しみの連鎖ではなく愛によって返していく。きれいな言葉だけど、どれほど苦しい想いの中から出てきたのだろうか。死に直面し、それをなんとか乗り越える中で出てきた言葉。私たちはこの言葉を自分に引きつけて語っていかなくてはならないと痛感した。被爆者が語る原点が伝わっていた。被爆体験は被爆した時だけではない。そこから始まる人生も、傷つき苦しみながら生きていかなくてはならない。それを乗り越える

ことがどれほど大変なことか。この映画を観て痛感した。人間らしく生きるとは何か、生き方を考えさせられる映画でした。

■男性（18歳）

私たちが生きている今、東日本大震災の傷跡が未だに残っている時代。今も数多くの方が故郷を追われて仮設住宅暮らしを余儀なくされているのに、首都圏では不夜城のようにネオンが輝いている。東北のつらい現実を気にかけている人はどれほどいるだろう。原発も原爆も放射能の被害は根深く、長きに及ぶものだから関心を抱いていきたいと思った。

戦後になっても被爆者が差別され苦しむ姿を劇中で見ると、戦争というのは戦時中だけではなく、せつかく生きのびても受難を受ける。戦争の恐ろしさは長く、人生を壊し、苦しみの淵に落とすものなのだと改めて思った。戦後70年、被爆70年となる今年、自分も戦争体験者が生きているうちに「事実の証言」を聴いておきたい。

■女性（16歳）

被爆者の方の「人生」を描いたものを見るのは初めてですごく新鮮だった。前に被爆者の方の話で聞いた「今も自分の中で戦争は終わっていない」という言葉がすこし分かった気がする。

6. 第6回打ち合わせの報告と今後の予定

4/19に東京四ツ谷の主婦会館プラザエフ5F会議室で第6回打ち合わせを開催しました。打ち合わせには6名が参加。日本被団協とノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会が作成した『被爆者からのメッセージ』の普及・活用や、被爆証言をDST（デジタルストーリーテリング）の手法で作品にしてweb上で発信することなどを話し合いました。

=今後の予定=

■被爆の証言を聞くつどい

日程：7月4日（土）13：30～

場所：主婦会館プラザエフ5F会議室

■ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐつどい

12月開催予定。

■ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワーク第7回打ち合わせ

日時：7月18日（土）13：30～

場所：主婦会館プラザエフ5F会議室

内容：12月の語り受け継ぐつどいのテーマ、開催地

2016年以降の取り組みについて

【ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐネットワークとは】

日本被団協とノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会は、2013年12月に開催した「ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐつどい」を機に、被爆者と受け継ぎ手が協力して、被爆者一人ひとりの声に耳を傾け、語り合い、記録に残す取り組みを呼びかけました。この呼びかけにこたえた個人、グループ、団体のネットワークです。『被爆者からのメッセージ』の制作や「被爆の証言を聞くつどい」、「ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐつどい」などを企画してきました。取り組みは継承ブログなどでご案内しています。どなたでも参加いただけます。

【お問い合わせ】

事務局 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会（島村）まで

E-mail: shimamura_kiokuisan@yahoo.co.jp

直通 TEL/直通 FAX 03-5216-7757

V. 各地の取り組み

1. 東京高校生平和ゼミナール「春の学習交流会」“被爆者からのたすき”

中出 律（東京高校生平和ゼミナール世話人）

3月22日正則高校を会場として“被爆者からのたすき”という集いを被爆者の児玉三智子さんをお招きして開きました。まず、2人の高校3年生の感想をご紹介します。



M君の感想

広島で7歳の時に被爆した児玉三智子さんのお話を伺い、感想交流や「たすき」をリレーする次世代として考えるしゃべり場など約4時間のプログラム。大人も含め29名が参加した。児玉さんの人生をかけた語りに耳をすまし、そのことばを受け止めた一人ひとりの生命から紡ぎだされる若者たちのおもい。

児玉さんの証言は圧倒的だった。きこの雲の下の生き地獄。皮膚が焼けただけ、全身ずるむけになってさまよう人。眼球や内臓が飛び出した人。赤子を抱いて這うように水を求める母親…。児玉さんは、その「歴史が忘れさせてくれない光景」をありのまま、そのことばに自分の全人生を引っ提げて、歴史の真実とリアルを僕らに明らかにしてくれた。

被爆者の証言を聞くということは、心から心へ伝えられる人間の物語のリレーであり、

生命のつながりの風景そのものなのである。この営みこそは、歴史学習という側面以前に私たちが大切に守り育てていくべき人間の姿ではないだろうか。

S君の感想

「私の中で戦争は終わっていません」と児玉氏は言われた。70年過ぎても広島で見た惨状、さまざまな困難は忘れることなく、記憶として刻まれている。もしかしたら辛い、思い出したくないという気持ちは計りしれないほど強かったかもしれない。それでも私達に語ってくれたのは、「知ってほしい、そして戦争と核のなき世界をつくってほしい」という願いに他ならないのではないか。



戦争と核は数多くの人を殺傷し、後遺症を残し、都合よく正当化され、人が人として生きること、権利が無視される。だから戦争と核は根絶しなければならない。私たちは「地球」という中でしか生きられないのだから。

当日の生徒は中学3年生から高3まで、計16人でしたが、児玉さんの1時間の講演、その後の20分の質疑応答、とても集中していました。高3には卒業祝い、他の学年の生徒には何よりの進級祝いとなりました。さらに最後に、『2015年NPT再検討会議へ向けて被爆者からのメッセージ』が全員に配布されましたが、これも児玉さんのお話と合わせて心に残る贈り物になりました。

2. 冊子「原爆投下後の70年 今、なお」が出来上がりました！

千葉県原爆被爆者の被爆体験聞き取り活動実行委員会
事務局 渡辺寧



はじめに

千葉県原爆被爆者の被爆体験聞き取り活動実行委員会（以下、実行委員会）が千葉県にお住いの被爆者34名の方から聞き取った被爆体験、また聞き取ったメンバーの感想なども掲載した冊子「原爆投下後の70年 今、なお」が3月末にようやく完成しました。冊子は1000部作成し、1部千円で頒布します。普及がこれからの課題となります。

日本語版の他、英語版も300部作成しました。

これはNPT再検討会議に行かれる方に託しました。

私は当初から実行委員会に事務局として関わってきました。事務局の視点からあらため

て今日までの実行委員会の経過を振り返って報告します。

実行委員会立ち上げ

もともとは、地域で平和に取り組むコープみらいの組合員グループの方たちから「埼玉では被爆体験の聞き取り活動をやっていると聞いている。千葉でもできないか」「被爆者の聞き取りをやるのは今しかない」という声が上がったことがきっかけでした。コープみらいの組合員グループの方々、千葉県原爆被爆者友愛会（以下、友愛会）、コープネットグループ労働組合、コープみらい千葉県本部参加とネットワーク推進室のメンバーが集まって何回か話し合いを持ち、2013年9月に実行委員会立ち上げに向けた準備会を開催して、実行委員会ができました。

実行委員会の中には世話人を作り、実行委員会事務局はコープネットグループ労働組合とコープみらい千葉県本部参加とネットワーク推進室が担うこととなりました。実行委員会では聞き取り活動とともに、冊子作成のための協賛金集めなども取り組むことを決め、実行に移していきました。実行委員会は2～3ヶ月に一回のペースで開催しました。

冊子の前文にも書きましたが、今回の実行委員会の原動力となったのは、地域で平和の活動に取り組むコープみらいの組合員の皆さんの熱い想いでした。時には実行委員会の中で事務局との間で熱い論議となる場面もありましたが、それだけみんなが真剣に考え、それぞれが自分の役割を果たそうとしていたのだと思います。

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会のご協力

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会の皆さんには実行委員会立ち上げ前からいろいろ相談に乗っていただきました。また、実行委員会にも参加していただき、学習や聞き取りの進め方の講師にもなっていただき、大変助かりました。

聞き取り活動開始

千葉県を3つのブロックに分けて、聞き取り活動をすることにしました。ブロック毎に世話人を決めて、友愛会の方と連携しながら、被爆者と聞き取る実行委員メンバーとをコーディネートしました。ブロック毎にすすめることで、聞き取り活動がスムーズに運びました。

編集委員会立ち上げ

聞き取り活動と平行して、冊子の作成を具体的に進めなければなりませんので、実行委員会の中に編集委員会を設置することにしました。編集委員会は冊子のコンセプトや構成などを起案し、実行委員会に諮りながら進めました。印刷会社の選考なども編集委員会で行いました。原稿が揃って校正の段階から、コープみらい千葉県本部で広報を担当されているパートの方2名に編集委員会に入っていただきました。普段編集や校正などのお仕事をされているだけあって、大変力を発揮してくれました。校正のために聞き取り原稿の読

み合わせをするのですが、このお二人が原稿の内容に感じ入り、泣きながら読み合わせをして校正している姿が今も忘れられません。

表紙のイラストは実行委員の娘さんが作成

コープみらいのヒロシマ平和の旅に親子で参加したOさんは、そのことがきっかけで実行委員会に参加してくださいました。実行委員会や編集委員会には欠かさず参加し、ブロックの世話人も勤めるなど、本当に力を発揮してくれました。また、2014年12月にノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会が開催した「ヒロシマ・ナガサキを語り継ぐつどい」の報告者にもなり、多くの参加者に感銘を与える報告をされました。

表紙のイラストをどうしようかという話になったときに、Oさんの中学生になる娘さんがパソコンでグラフィックのソフトを使って表紙のイラストを描いてくれることになりました。つなぎあう手と手をモチーフにした大変素晴らしい表紙となりました。

寄稿文、メッセージ

せっかく作る冊子なので、核兵器廃絶の想いをもっていらっしゃる著名な方に寄稿していただきたいねという実行委員会の論議の中から、安齋郁郎氏、吉永小百合氏にお願いすることになりました。実行委員会の取り組み経過を伝え、校正段階の冊子をお見せしながら依頼したところ、おふたりともこころよく引き受けてくださり、冊子の巻頭を飾ることができました。私たちの取り組みをきちんと認めてくださったんだなと大変うれしく思いました。

英語版

実行委員会では、当初からNPT再検討会議に向けて英語版を作ることを決めていました。日本語版がほぼ出来上がった段階で英語版作成に着手しました。日本語版から7人の方を選び、実行委員のついでで英訳し、その上で全体監修は仕事で英語を扱っている方に有償でお願いして完成させました。英語版は300部作成し、NPT再検討会議に行かれる千葉県原水協やコープみらいの生協代表団、友愛会の方に託し、ニューヨークでのさまざまな行動の場面で活用していただくことになりました。

座談会

今回作りたかったのは、被爆体験記集にとどまらず、聞き取りに参加したメンバーの感想やこれからこうしていきたいというメッセージも入った冊子でした。その想いの具体化のひとつとして、実行委員メンバー数名で聞き取り活動を振り返っての座談会を行いました。座談会の司会は私がつとめたのですが、実行委員会を作って聞き取り活動をしたことの意義が再確認できる内容となりました。とくに友愛会やコープみらい組合員の、これまでの地道な活動があったからこそ聞き取りがスムーズにできたんだということがあらためて分かりました（「生協のお母さんたちに手で編んだひざ掛けをもらったことがある。

今も使っています。生協のお母さんたちが聞いてくださるんだったらお話しします」といってくださった被爆者の方がいたというくだりなど)。

おわりに

冊子「原爆投下後の70年 今、なお」は、とくに若い世代にも読んでいただこうとルビも振って読み易くしました。コープみらい千葉県本部の渉外活動の中で、県内の自治体訪問の際に、図書館などに置いていただくことにもなっています。

冊子の普及に皆様のご協力をいただければ幸いです。冊子をご希望の方は下記まで是非お申し込みください。

【お問合せ/連絡先】

コープみらい千葉県本部参加とネットワーク推進室内事務局

電話043-301-6681

VI. 2015年度会費納入のお願い

会費の振込用紙を同封させていただきました。すでにお納めいただいているみなさまには振込用紙は入っておりません。ご送金と前後した場合はお許しください。

領収証が必要な方はご連絡下さい。領収証をお送りいたします。よろしく願いいたします。

VII. 第3回通常総会のご案内

広島、長崎に原爆が投下されてから70年の節目を迎え、原爆体験の記憶を受け継ぐ取り組みを一層強めていくことが求められています。今総会では、この間検討を重ねてきた「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産の継承センター」設立構想について、事業報告の一環としてその内容をスクリーンに映写して報告します。また、この会が日本被団協とともに取り組んできた、「原爆の反人間性レポート」や「被爆者からのメッセージ」がNPT再検討会議・国連原爆展ではどのような反響を呼んだのか、被爆者代表からの報告を予定しています。さらに、被爆者運動史資料も約3000点ほど収集・整理が進みましたが、その到達点についても報告します。こうした一年間の取り組みを振り返るとともに、新年度の事業計画を共有するために、第3回通常総会を下記の要領で開催します。

記

第3回通常総会

1. 日 時 2015年5月23日(土) 午後1時～4時
1. 場 所 東京四谷主婦会館プラザエフ 8階「スイセン」
東京都千代田区六番町15 TEL03-3265-8111

1. 議 題

(審議事項)

- 第1号議案 2014年度事業報告(案)の承認の件
- 第2号議案 2014年度決算(案)の承認の件
- 第3号議案 役員選任の件
- 第4号議案 平成24年度活動計算書の承認の件

(報告事項)

- 1. 2015年度事業計画
- 2. 2015年度予算

(※定款により、事業報告・決算は総会議決事項、事業計画・予算は理事会議決事項です。)

正会員の皆様へ

1. 第3回通常総会の出欠について、同封の出欠通知(ハガキ)を5月18日(月)までにご返送ください。
2. 第3回通常総会にご出席の際には、この案内状を受付にご提示ください。
3. ご来場の際、同封の「第3回通常総会議案書」をご持参ください。
4. 第3回通常総会にご欠席の場合は、同封の出欠通知(ハガキ)に記載されている(1. 書面議決書)か、(2. 委任状)か、いずれかに必要事項をご記入のうえ、出欠通知とともにご返送くださるようお願いいたします。

賛助会員、賛助団体への皆様へ

総会へご出席いただける場合、会場設営の都合上、同封の出席通知にてご連絡ください。

(FAX: 03-5216-7757)

以上

